

第1次 弥富市総合計画

弥富新時代への針路

みんなで作るきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間

弥富市

第1次 弥富市総合計画

弥富新時代への針路

みんなで作るきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間

ごあいさつ



私たちのまち「弥富市」は、平成18年4月に合併し、はや3年を経過しようとしております。これまでは合併時に策定した新市基本計画に基づき、「自然」、「交流」、「協働」を基本理念に、新市の一体性の速やかな確立を図りながら、まちづくりを進めてまいりました。

一方、本格的な地方分権時代の到来をはじめ、急速に進展する少子高齢化、地球環境問題の一層の深刻化、経済のグローバル化の進展など、あらゆる分野において新たな時代が到来しようとしています。

そこで、これらの課題への取り組みと合併後のさらなる一体的なまちづくりを推進するため、今後10年間のまちづくりの指針として、第1次弥富市総合計画「弥富新時代への針路」を策定いたしました。

この計画は、本市の将来像を「みんなでつくるきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間」と定め、これを実現するため、6つの政策目標と37の施策項目ごとの取り組みを総合的に推進することを基本としています。

また、各施策に具体的な目標である成果指標を設定し、定期的に数値を点検していくことによって、事業効果の検証を実施していくこととしました。

今後も、市民の皆様のご意見をお聴きしながら、計画された事業を一つ一つ着実に実行してまいりたいと存じます。

最後に、この計画の策定にあたり、ご協力いただきました市議会議員、総合計画審議会委員、まちづくり会議委員の皆様をはじめ、多くの貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様から感謝申し上げるとともに、この計画に定めた将来像の実現に向けて、市民の皆様とともに歩んでいきたいと存じますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年3月

愛知県弥富市長 服部 彰 文

第1次 弥富市総合計画

弥富新時代への針路

みんなでつくるきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間

目次

第1編 序論	1
第1章 弥富市総合計画「弥富新時代への針路」とは	2
1. 計画策定の目的	2
2. 計画の役割と構成、特徴	3
第2章 弥富市の概況	6
1. 位置と地勢	6
2. 人口の状況	8
第3章 新たなまちづくりに向けて	12
1. 弥富市の特性	12
2. 時代の潮流	15
3. 市民ニーズの動向	19
4. 弥富市発展への主要課題	27
第2編 基本構想	31
第1章 弥富市の将来像	32
1. 新たなまちづくりのキーワード	32
2. 将来像	33
3. 政策目標と施策項目	34
第2章 人口の目標と土地利用の方針	40
1. 人口の目標	40
2. 土地利用の方針	43
第3章 施策の大綱	44
1. 定住と交流、活力を生むやとみ	44
2. 快適で安全・安心なやとみ	46
3. 健やかでやさしいやとみ	48
4. 人が輝き文化が薫るやとみ	50
5. 豊かで活力に満ちたやとみ	52
6. 共につくる自立したやとみ	54
第4章 やとみ重点構想	56

第3編 基本計画	67
第1章 定住と交流、活力を生むやとみ	68
1. 土地の有効利用	68
2. 市街地の整備	70
3. 住宅施策の推進	73
4. 道路・交通網の充実	75
5. 情報化の推進	78
6. 港湾地域の整備促進	80
第2章 快適で安全・安心なやとみ	82
1. 環境自治体の形成	82
2. 上水道の充実	85
3. 下水道の充実	87
4. 廃棄物処理等環境衛生の充実	89
5. 公園・緑地の整備	92
6. 治水安全度の向上	94
7. 消防・防災の充実	96
8. 防犯・交通安全の充実	100
第3章 健やかでやさしいやとみ	104
1. 健康づくり・医療体制の充実	104
2. 地域福祉の充実	108
3. 子育て支援の充実	110
4. 高齢者支援の充実	114
5. 障害者支援の充実	117
6. 社会保障の充実	121
第4章 人が輝き文化が薫るやとみ	124
1. 学校教育の充実	124
2. 生涯学習社会の形成	128
3. スポーツの振興	131

4. 文化芸術の振興	134
5. 青少年の健全育成	137
6. 国際化、交流活動の推進	139
第5章 豊かで活力に満ちたやとみ	142
1. 農水産業の振興	142
2. 商業の振興	146
3. 工業の振興	148
4. 観光・レクリエーションの振興	151
5. 雇用対策・勤労者福祉の充実	153
6. 消費者対策の充実	155
第6章 共につくる自立したやとみ	158
1. 男女共同参画の促進	158
2. 人権の尊重	161
3. コミュニティの育成	163
4. 市民と行政との協働のまちづくりの推進	165
5. 自立した自治体経営の推進	168
資料編	171



第1編

序論

弥富市総合計画 「弥富新時代への針路」とは

1 計画策定の目的

弥富市は、地方分権^{※1}の推進をはじめとする時代の潮流に対応した行財政基盤の強化、地域特性を生かした魅力あるまちづくりの推進、そして抱える課題への対応力の強化に向け、平成18年4月1日に、これまで様々な面で強い結びつきを持ってきた旧弥富町、旧十四山村の2町村の合併によって誕生しました。

しかし、合併は、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくための手段であり、目的ではありません。

今後、これまで以上に厳しい財政運営を迫られることが見込まれる中で、行財政運営の一層の効率化や市民と行政との新しい関係の構築を進めながら、個性豊かで自立した自治体をどのように作り、いかに経営していくかが問われており、そのための新たな挑戦が始まったところです。

このため、合併に際して弥富町・十四山村合併協議会で策定した新市基本計画及び旧2町村の総合計画、市民憲章を基本に、直近の市民ニーズの動向や社会・経済情勢の変化を十分に踏まえ、市民のまちづくりの共通目標として、また自立したまちづくりのための経営指針として、ここに「弥富市総合計画」を策定します。

※1 国主導型行政から地域主導型行政への転換に向けた国と地方との関係や役割分担の改革

2 計画の役割と構成、特徴

1. 計画の愛称

本計画がすべての市民に親しまれ、市民と行政とが本市の進むべき方向を共有し、新しい時代の弥富市に向けて共に歩んでいくという想いを込め、計画の愛称を、「**弥富新時代への針路**」と定めます。

2. 計画の役割

「総合計画」とは、地方自治法第2条第4項において基本構想の策定が義務づけられた自治体の最上位計画です。本計画は、こうした位置づけを基本に、次のような役割を持つ計画として策定したものです。

弥富市民にとって

まちづくりに参画・協働するための共通目標

市民に対し、今後のまちづくりの方向や取り組みをわかりやすく示し、すべての市民がまちづくりに主体的に参画・協働^{※2}するための共通目標となるものです。

弥富市行政にとって

自立したまちづくりを進めるための経営指針

市行政においては、地方分権時代に即した自立した自治体を創造し、将来にわたって持続的に経営していくための経営指針となるとともに、国や愛知県、周辺自治体等に対しては、必要な施策や事業を要請していくためのわがまち弥富市の主張を示すものです。

※2 お互いに存在を認め合いながら協力すること。本市における「協働」は、協力するという行動（Do）だけでなく、年齢や障害等により現実的に行動するのが難しい市民の存在（Be）も大切にした、「共存・協働」の意味で使用している。

3. 計画の構成

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。それぞれの内容と期間は、次のとおりです。

基本構想

基本構想は、本市の特性や時代の潮流、市民ニーズの動向、主要課題等を総合的に勘案し、本市が目指す将来像と、その実現に向けた政策目標や施策項目、施策の大綱、重点構想等を示したものです。

計画期間は、平成21年度から平成30年度までの10年間とします。

基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、今後推進する主要施策や主要事業、具体的な数値による成果指標等を示したもので、成果指標により、計画の点検・評価とその公表を行うこととします。急速に変化する社会・経済情勢に対応し、前期基本計画と後期基本計画にわけて策定します。

計画期間は、前期基本計画が平成21年度から平成25年度までの5年間、後期基本計画が平成26年度から平成30年度までの5年間とします。

実施計画

実施計画は、基本計画に基づき、具体的に実施する事業の内容や優先順位、財源等を示したもので、別途策定するものとします。

計画期間は、向こう3年間とし、毎年度見直しを行います。

4. 計画の特徴

本計画は、近年の自治体をめぐる情勢の変化を踏まえ、これまでの総合計画の要素に、市民参画・協働の一層の重視や、行財政改革との連動など、新たな視点を加えた“新しいタイプの総合計画”として策定したものであり、次のような特徴を持ちます。

市民の目線を重視した、わかりやすく親しみやすい計画

市民のまちづくりの共通目標として、計画策定段階における市民参画・市民ニーズの反映と、計画推進段階における市民参画・協働の促進を一層重視し、市民の目線を重視した、わかりやすく親しみやすい構成・内容とし、すべての市民が共感・共有できる計画として策定したものです。

より一層効率的な経営と、成果の評価が行える計画

自立したまちづくりのための経営指針として、限られた経営資源^{※3}を有効に活用する視点、民間経営理念・手法を導入する視点に立ち、行財政改革と連動した、より一層効率的な経営が行える計画として、また、まちづくりの成果を点検・評価・公表し、施策・事業の改善が行える計画として策定したものです。

特性・資源を生かす、明るく積極的なまちづくり計画

取り巻く状況が厳しさを増す中でも、本市ならではの魅力と個性を高めることに重点を置き、本市の特性・資源を生かし、さらに磨き上げて弥富市らしいまちづくりを進める、明るく積極的なまちづくり計画として策定したものです。

※3 人、物、財源

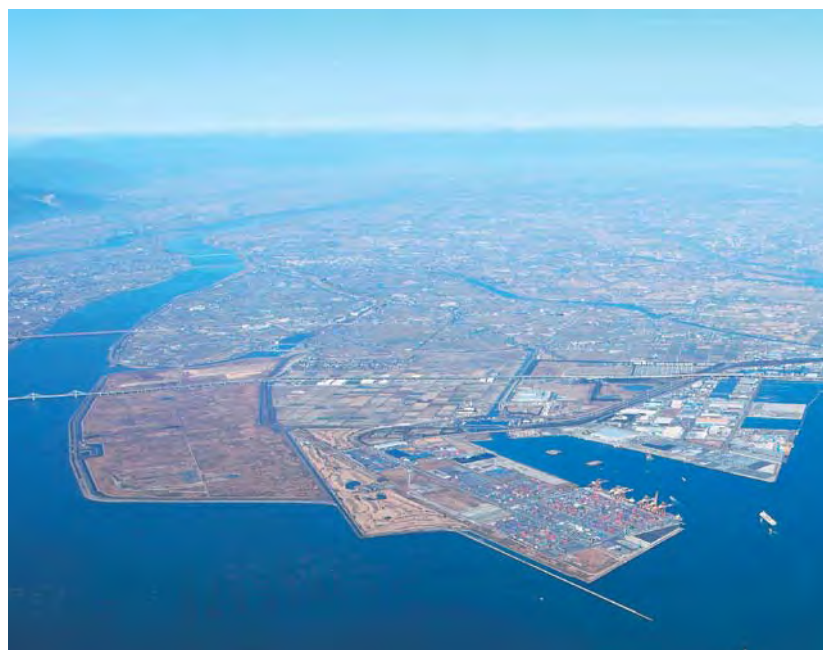
1 位置と地勢

本市は、愛知県の西部、海部地区の南西端に位置し、東は蟹江町及び飛島村、西は三重県木曾岬町、北は愛西市に隣接し、南は名古屋港西部臨海工業地帯を経て、名古屋港の港湾海域に臨んでいます。

濃尾平野の低地にあり、市域のほとんどが海拔ゼロメートル地帯で、西から東南へ緩やかな傾斜を持つ低湿地地帯であり、地質は、木曾川及びその支流の堆積土で形成された沖積層となっています。

東西約9km、南北約15kmと南北に長い形をしており、総面積は48.18km²となっています。

気候は、温暖で夏季多雨、冬季乾燥型であり、梅雨時や台風時期には降水量が多く、冬季には伊吹おろしと呼ばれる北西の冷たい風が吹きます。



弥富市の位置



2 人口の状況

1. 人口と世帯

平成17年の国勢調査によると、本市の総人口は42,575人となっています。これまでの推移をみると、平成2年から平成7年が2,338人の増加、平成7年から平成12年が870人の増加、平成12年から平成17年が396人の増加となっており、近年、増加率が低下してきています。

これを近隣の8市町村（海部地区広域行政圏構成市町村）との比較でみると、平成12年から平成17年の増加率は、甚目寺町、大治町、七宝町、蟹江町に次いで5番目となっています。

年齢階層別にみると、14歳以下の年少人口は6,569人（15.4%）、15～64歳の生産年齢人口は28,538人（67.0%）、65歳以上の老年人口は7,453人（17.5%）となっています。

これを全国及び愛知県との比較でみると、年少人口比率（15.4%）は全国平均（13.7%）や県平均（14.7%）を上回り、老年人口比率（17.5%）は全国平均（20.1%）や県平均（24.1%）を下回っていますが、これまでの推移をみると、少子高齢化が確実に進行していることがうかがえます。

また、総世帯数は13,924世帯で、増加傾向で推移していますが、総人口の傾向と同様に、近年、増加率は低下してきています。

一世帯当人数は3.06人となっており、一貫して減少を続けており、核家族化や世帯の多様化が進んでいることを示しています。

人口と世帯

■ 総人口・年齢階層別人口・総世帯数・一世帯当人数

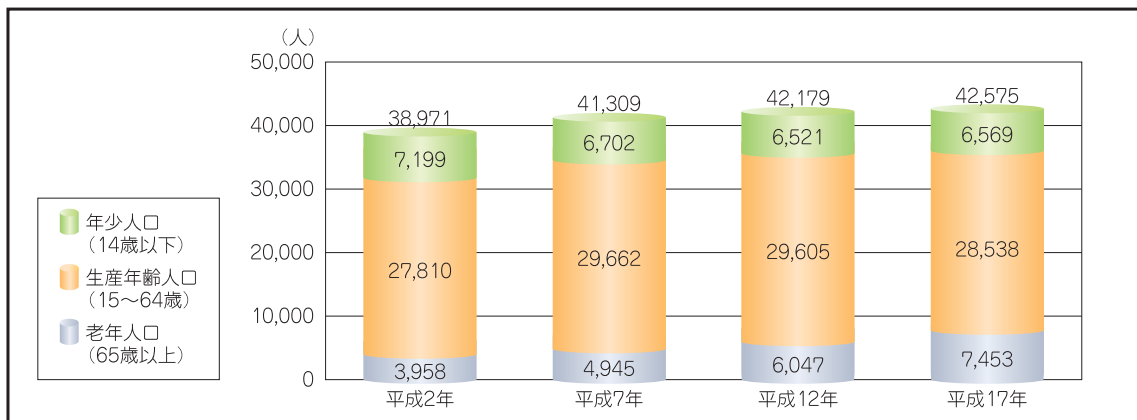
(単位：人、%、世帯)

項目	年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総人口 [増減]		38,971 [-]	41,309 [+2,338]	42,179 [+870]	42,575 [+396]
年少人口 (14歳以下)		7,199 (18.5)	6,702 (16.2)	6,521 (15.5)	6,569 (15.4)
生産年齢人口 (15~64歳)		27,810 (71.4)	29,662 (71.8)	29,605 (70.2)	28,538 (67.0)
老年人口 (65歳以上)		3,958 (10.2)	4,945 (12.0)	6,047 (14.3)	7,453 (17.5)
総世帯数		10,756	12,238	13,210	13,924
一世帯当人数		3.62	3.38	3.19	3.06

注) 総人口には、平成2年に4人、平成12年に6人、平成17年に15人の年齢不詳を含む。

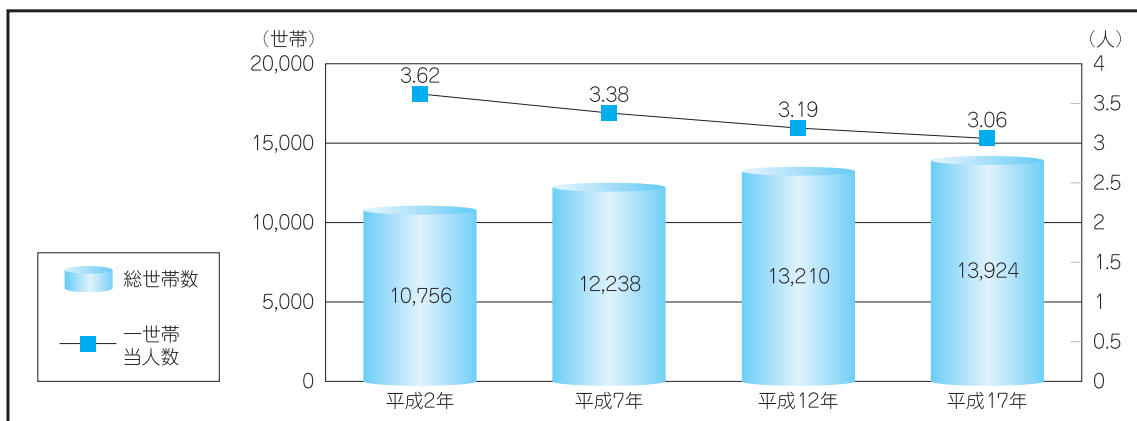
■ 総人口・年齢階層別人口

(単位：人)



■ 総世帯数・一世帯当人数

(単位：世帯、人)



資料：国勢調査

2. 就業構造

本市の就業人口総数は22,353人となっており、平成7年以降、減少傾向で推移し、平成12年から平成17年では393人の減少となっています。

産業別にみると、第1次産業は1,367人(6.1%)、第2次産業は6,749人(30.2%)、第3次産業は13,960人(62.5%)となっています。

これを全国及び愛知県との比較でみると、第1次産業の構成比率(6.1%)は全国平均(4.8%)や県平均(2.8%)を上回り、第2次産業の構成比率(30.2%)は全国平均(26.1%)を上回るものの県平均(34.4%)を下回り、第3次産業の構成比率(62.5%)は全国平均(67.2%)を下回るものの県平均(61.3%)を上回り、第1次産業の構成比率がやや高いという特徴があります。

また、これまでの推移をみると、第1次産業及び第2次産業が人数、構成比率ともに減少し、第3次産業が人数、構成比率ともに増加し、就業構造が大きく変化してきています。



就業構造

就業人口総数・産業別就業人口・就業率

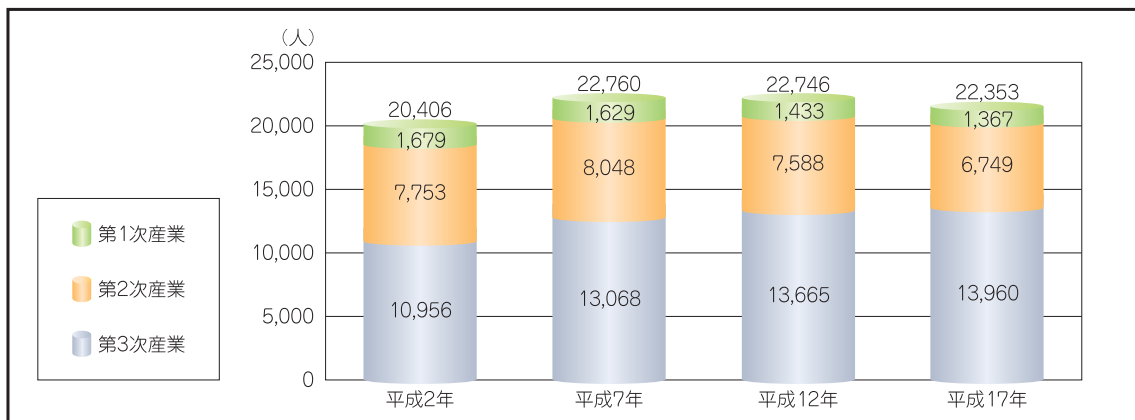
(単位：人、%)

項目	年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
就業人口総数		20,406	22,760	22,746	22,353
第1次産業		1,679 (8.2)	1,629 (7.2)	1,433 (6.3)	1,367 (6.1)
第2次産業		7,753 (38.0)	8,048 (35.4)	7,588 (33.4)	6,749 (30.2)
第3次産業		10,956 (53.7)	13,068 (57.4)	13,665 (60.1)	13,960 (62.5)
就業率		52.4	55.1	53.9	52.5

注) 就業人口総数には、平成2年に18人、平成7年に15人、平成12年に60人、平成17年に277人の分類不能を含む。

就業人口総数・産業別就業人口

(単位：人)



資料：国勢調査

1 弥富市の特性

本市は、交通の要衝のまち、水郷のまちとしての特性をはじめ、多様な特性・資源を有する特色あるまちです。弥富市らしい新たなまちづくりを進めるにあたっては、まず、特性・資源を生かし、さらに磨き上げていく視点に立ち、本市の特性をあらためてとらえ直す必要があります。本市の伸ばすべき代表的な特性は、次のとおりです。

特性 1

名古屋市に近接し、鉄道や広域道路網が充実した、交通の要衝のまち

本市は、名古屋市の西側20km圏に位置し、名古屋市の中心部まで車で約30分、鉄道で約15分の距離にあり、大都市に近接する恵まれた立地条件にあります。

また、JR関西本線、名鉄尾西線、近鉄名古屋線の鉄道3路線が走るほか、東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道（新名神高速道路）の高速自動車道、国道1号・23号・155号、西尾張中央道などの幹線道路が走り、名古屋市方面はもとより、中部国際空港や関西方面などへのアクセスに恵まれ、交通便利性の高い広域的な交通の要衝としての特性を持ちます。

さらに今後も、名古屋第3環状線や一宮西港道路の整備等が計画されており、これらに伴い、交通の要衝のまちとしての位置づけがさらに高まることが期待されています。

特性 2

美しい水郷と豊かな田園空間が広がる水と緑のまち

本市は、木曾川下流のデルタ地帯に干拓によって開拓されたまちであり、先人たちの水との闘いと水の恩恵とによって形づくられ、稲作を中心とする水郷地帯として発展してきました。

現在も、宝川や筏川などの数多くの河川や水路が流れ、周辺の緑とともに美しい水郷環境・景観を生み出しているとともに、水田を中心とする豊かな田園空間が一面に広がっており、本市はまさに、水と緑のまちといえます。

また、水とともに歩んできたまちとして、輪中の家並みや樋門等の建造物、田舟、海苔洗い・すき等の民俗資料などが残され、独特の水郷文化がいきづいています。

特性
3

名古屋港の一翼を担う港湾地域を有する発展可能性の高いまち

本市は、南部に名古屋港の一翼を担う港湾地域を有しています。名古屋港は、わが国を代表する国際港湾であり、中部圏の地域経済、人々の生活を支える総合港湾として、国際競争力の強化に向けた物流機能をはじめ、産業、交流、環境及び防災・安全といった多様な機能が調和した質の高い港湾空間の形成を目指した整備が進められています。

本市の港湾地域は、鍋田ふ頭と弥富ふ頭を中心に形成され、港湾計画の中で、主に物流ゾーンとして位置づけられており、現在、関連企業の誘致やコンテナ機能の強化など、物流拠点の形成に向けた取り組みが着々と進められており、その背後地や沖合のポートアイランド^{※4}、隣接する木曾岬干拓地とともに、本市の今後の発展をリードする地域として大きな期待がかけられています。

特性
4

金魚や白文鳥など独特の特産品を生み出すまち

本市は、流れのゆるやかな河川や水路を有する水郷地帯としての特性を生かし、古くから金魚の養殖が行われ、一大産地を形成しており、生産高は日本一となっています。また、生産地としてだけでなく、流通拠点としてもわが国有数の市場を形成しており、日本の金魚の全種類である約25種類すべてが本市でそろいます。

また、本市では、古くから農家の副業として文鳥飼育が行われ、現在では日本唯一の白文鳥の産地となっているほか、農業においても、大都市近郊の地の利を生かし、水稲、野菜、花きなどの多様な農産物を生み出しています。

※4 人工の島

特性
5

保健・医療・福祉環境、生涯学習・スポーツ環境が充実したまち

本市は、地域医療の中核的な役割を担う総合病院を有するなど、恵まれた医療環境にあるほか、保健・福祉面においても、保健センターや総合福祉センター等を拠点に、社会福祉協議会等との連携のもと、予防を重視した体系的な保健サービスの提供やきめ細かな福祉・介護施策を推進し、着実にその成果を上げつつあります。

また生涯学習・スポーツ面においても、総合社会教育センターや文化広場をはじめ、公民館、図書館、歴史民俗資料館、スポーツ施設などの施設環境に恵まれ、多様な学習・文化・スポーツ活動が活発に展開されています。

特性
6

愛着度・定住意向が強く、市民活動が活発なまち

都市化の進展や核家族化の進行に伴い、全国的に郷土愛や連帯意識、人と人とのつながりが薄れていく傾向にある中で、水郷のまちとしての独特の自然や歴史などによって古くから育まれてきた市民の郷土に対する愛着や定住意向、連帯意識の強さ、そしてそれらを背景にしたコミュニティ活動やボランティア活動をはじめとする市民活動の活発な地域性は、今後のまちづくりにおいて積極的に伸ばしていくべき本市の優れた特性の一つです。

本計画の策定にあたって実施した「まちづくりアンケート調査」の結果においても、本市に“愛着を感じている”人が約8割となっているほか、本市に“住み続けたい”人も8割を超えています。

2 時代の潮流

本格的な地方分権時代の到来をはじめ、あらゆる分野において新たな時代が到来しています。本市が新たなまちづくりを進めるにあたって、踏まえるべき代表的な時代の潮流は、次のとおりです。

潮流 1

本格的な地方分権の時代

わが国では、従来の国主導型の行政から、地域主導型の行政への転換に向け、様々な分野で国と地方との関係や役割分担が改善され、本格的な地方分権の時代を迎えました。また、これに伴い、三位一体改革^{※5}が進められているほか、道州制^{※6}の検討も行われており、これからの自治体には、自らの責任と判断で自らの進むべき方向を決め、具体的な施策を自ら実行することができる能力が強く求められます。

このため、本市においても、合併による行財政基盤の強化にとどまることなく、さらなる行財政改革を積極的に進め、真に自立可能・持続可能な体制を整備していくことが求められます。

潮流 2

住民参画・協働の時代

本格的な地方分権の時代を迎え、住民側においても、自分たちの地域は自分たちでつくるという気運が高まり、地域課題の解決に向けた住民活動や住民主導の特色ある地域づくり、住民と行政との協働のまちづくり、さらには新しい公共空間の形成^{※7}に向けた取り組みが全国的に活発化しています。

こうした住民活動や住民参画・協働のまちづくりは、これからの自立したまちづくりの原動力として必要不可欠なものであることから、本市においても、より一層の市民参画の促進や、市民と行政との協働体制の確立が求められます。

※5 補助金の削減、地方交付税の改革、税源の移譲を一体的に行う国と地方の税財政改革
※6 都道府県に代えて道または州を置く制度
※7 行政に委ねられてきた公共を見直し、住民や民間が共に公共を担うこと

潮流 3

環境保全・創造の時代

地球温暖化に代表される地球環境問題の一層の深刻化、水質汚濁や不法投棄などの身近な地域における環境問題の発生等を背景に、地球規模で環境の保全・創造の重要性が叫ばれており、わが国においても、将来世代へも継承できる「健やかで美しく豊かな環境先進国」の形成に向けた具体的取り組みが強く求められています。

本市においても、美しい水郷・田園環境の保全をはじめ、環境負荷の少ない持続可能な社会づくりに向けた取り組みを一層積極的に進めていくことが求められます。

潮流 4

安全・安心の時代

近年、国内外において大地震が発生し、自然災害からの安全性の確保への人々の意識が急速に高まっています。

また、世界各地におけるテロの発生、子どもが被害者となる凶悪犯罪の多発、食の安全をめぐる様々な問題の発生、振り込め詐欺等の悪質商法によるトラブルの急増を背景に、犯罪や事故のない安全・安心なまちづくりが強く求められています。

本市においても、発生が予測されている東海・東南海・南海地震への対応の強化や防犯体制の充実をはじめ、すべての分野で安全・安心の視点を十分に取り入れたまちづくりを進めていくことが求められます。

潮流 5

少子高齢・人口減少の時代

わが国では、世界に例をみないスピードで高齢化が進んでおり、特に、団塊の世代^{※8}が高齢期に入る平成27年頃には、これまでの状況をはるかに超えた超高齢社会を迎えることが予想されています。また、晩婚化・非婚化に加え、夫婦の出生力そのものの低下により、少子化も急速に進行し、これに伴い、総人口も平成17年度に減少に転じ、人口減少時代が到来しています。

本市の少子高齢化は、全国平均や県平均の水準には達していないものの、確実に進

※8 第二次大戦後のベビーブーム世代

行しており、今後は、まちづくりのあらゆる分野において、少子高齢化への対応を一層積極的に進めていくことが求められます。

潮流
6

教育再生の時代

教育を取り巻く環境が大きく変化する中、国では、道徳心、自律心、公共の精神など今日求められている事項を新たに定めた教育基本法改正法の施行をはじめ、関係法令の改正や教育振興基本計画の策定、教育再生会議における様々な検討など、教育再生に向けた取り組みを進めています。

本市においても、これらの流れに基づき、また本市の特性・資源を十分に生かしながら、特色ある教育・文化行政を進めていくことが求められます。

潮流
7

高度情報化の時代

インターネット^{※9}が急速に普及し、だれもが様々な情報を手軽にかつ瞬時に受発信することができる環境が実現したほか、これらを利活用して行政サービスの提供等を行う電子自治体の構築が全国的に進められています。

本市では、CATV^{※10}網の整備による情報化の取り組みが進められていますが、こうした情報化は、自治体経営の効率化や地域活性化、市民生活の質的向上に向けた社会基盤として、今後特に大きな役割を果たすことが予想されることから、本市においても一層積極的に推進していくことが求められます。

潮流
8

地球交流の時代

情報化や交通網の発達等を背景に、世界の国々との距離はますます縮まり、地球規模での人・物・情報の交流が活発化し、地域が直接、世界の諸地域と交流・連携する時代を迎えています。

本市では、オランダ王国等との交流を進めています。今後、こうした世界との交流

※9 世界規模の通信ネットワーク

※10 光ファイバケーブルや同軸ケーブルなどを使ったケーブルテレビ

や国際化への対応は、様々な分野で地域の活性化を促すことが予想されることから、本市においても一層積極的に取り組んでいくことが求められます。

潮流
9

地域産業再生の時代

地方における産業・経済は、少子高齢化や人口減少、地域間競争の激化、規制緩和等を背景に、依然として厳しい状況が続いています。

第1次産業の担い手の減少や高齢化、これに伴う農地等の荒廃等の問題が深刻化するとともに、商工業においても、商店街の衰退や事業所の撤退などの状況がみられ、これらに伴う雇用情勢の悪化や地域全体の活力低下が大きな問題となっており、地域産業の再生が強く求められています。

本市においても、交通の要衝のまちとしての特性等を生かしながら、時代の流れに即した支援施策を積極的に推進し、産業の再生を促していくことが求められます。

潮流
10

コミュニティ再生・創造の時代

高齢化や人口減少、核家族化の進行、価値観の変化等を背景に、全国的に住民同士の交流の減少や地域連帯感の希薄化がみられ、コミュニティの弱体化や崩壊が懸念されています。しかし、近年、地域における身近な防災・防犯対策、子育て、高齢者の見守りなどの必要性が高まる中で、本来地域が持っていた、共に支え合い助け合いながら地域の課題を地域自らが解決していく機能、コミュニティ機能の再生と創造が強く求められています。

本市においても、今後は、すべての分野で人と人が支え合い助け合う相互支援の仕組みづくりや、団塊の世代の大量退職も踏まえた高齢者パワーの地域づくりへの一層の活用をはじめ、新たなコミュニティの再生と創造を促す環境整備を進めていくことが求められます。

3 市民ニーズの動向

本計画の策定にあたり、本市では、計画づくりへの市民参画・市民ニーズの反映を重視し、「まちづくりアンケート調査」や「弥富市まちづくり会議」などを行いました。その結果から、今後のまちづくりの方向性を定めるにあたって踏まえるべき代表的な設問結果と提言内容を抜粋すると、次のとおりです。

1. まちづくりアンケート調査にみる市民ニーズ

本調査は、平成18年9月に、市内に居住する20歳以上の男女2,500人を無作為抽出し、郵送法によって実施したもので、有効回収数1,061、有効回収率42.4%となっています。

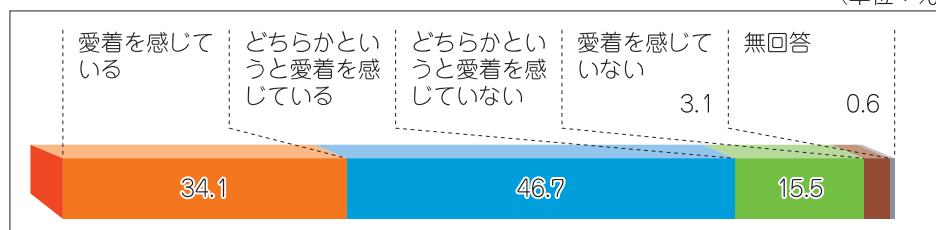
① 市への愛着度と今後の定住意向

“愛着を感じている”という人が約8割、“住み続けたい”という人も8割を超え、愛着度・定住意向が強い

市への愛着度については、「愛着を感じている」と「どちらかというとな愛着を感じている」を合わせた“愛着を感じている”人が約8割にのぼり、愛着度は強いといえます。また、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた“住み続けたい”人も8割を超え、今後の定住意向も強くなっています。

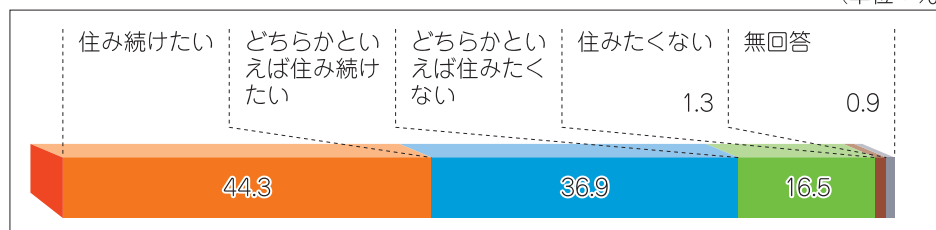
■市への愛着度■

(単位：%)



■今後の定住意向■

(単位：%)



② 市の現状評価と今後重視する取り組み

満足度が最も高いのは「買物の便利さ」。次いで「公共交通機関の便利さ」、「ごみ収集・処理・リサイクルの充実」の順。

一方、満足度が最も低いのは「下水道・排水処理施設の整備」。次いで「情報通信網の整備」、「公園・緑地の整備」・「まち並み・景観の整備」の順。

重要度が最も高いのは「災害対策の充実」。次いで「防犯対策の充実」、「下水道・排水処理施設の整備」の順。

市の各環境についての満足度を把握するため、各分野にわたる41項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかという満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかという不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を点数化しました。

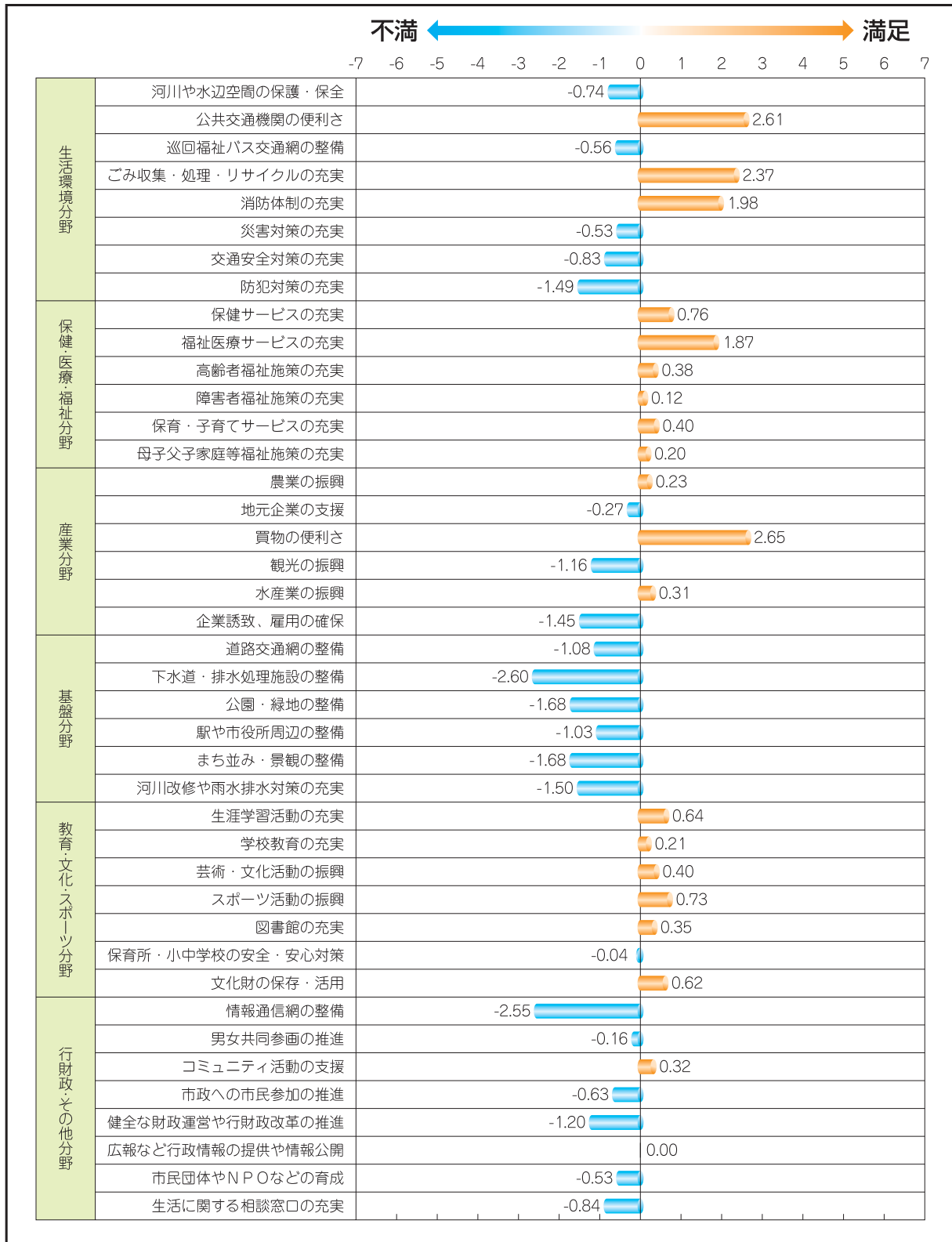
その結果、満足度が最も高いのは「買物の便利さ」で、次いで「公共交通機関の便利さ」、「ごみ収集・処理・リサイクルの充実」、「消防体制の充実」、「福祉医療サービスの充実」などの順となっています。

一方、満足度が最も低いのは「下水道・排水処理施設の整備」で、次いで「情報通信網の整備」、「公園・緑地の整備」・「まち並み・景観の整備」、「河川改修や雨水排水対策の充実」などの順となっています。

また、同じ41項目について、今後、どの程度重視するかをたずねたところ、重要度が最も高いのは「災害対策の充実」で、次いで「防犯対策の充実」、「下水道・排水処理施設の整備」、「ごみ収集・処理・リサイクルの充実」、「保健サービスの充実」、「道路交通網の整備」、「消防体制の充実」・「河川改修や雨水排水対策の充実」などの順となっています。

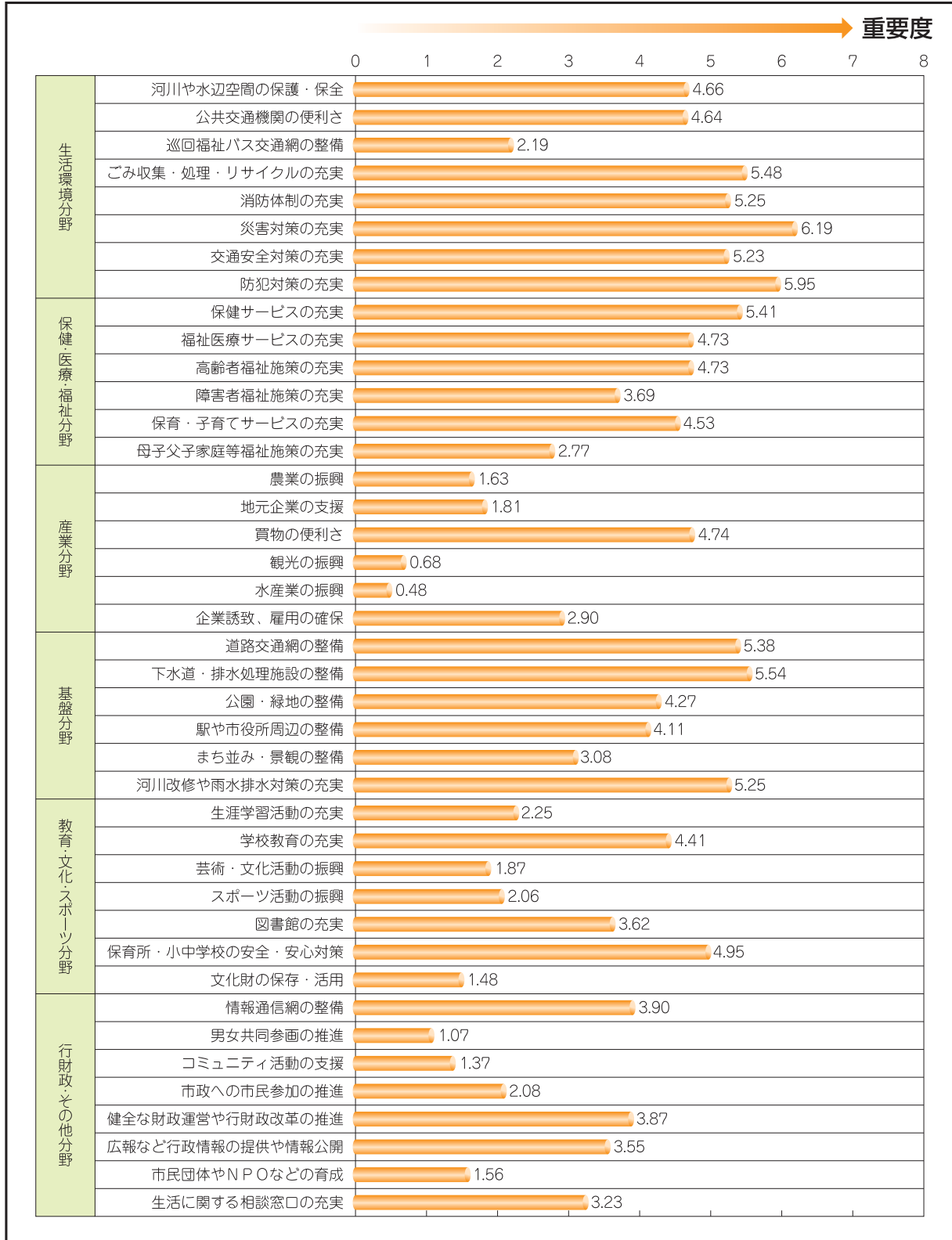
市の現状評価（満足度）

（単位：評価点）



今後重視する取り組み（重要度）

（単位：評価点）



2. 弥富市まちづくり会議の提言

本会議は、平成19年6月に、市民の中から公募した委員及び各種団体代表者（37名）に参加していただき、タウンウォッチング、意見発表・交換会、グループワークを行ったものです。以下は、そのうちのグループワークの成果を抜粋したものです。

① Aグループの提言

伸ばすべきところ

- 道路網の促進 ○災害対策 ○臨海地及び後背地の開発（先端産業）
- 街並み保存（農地の保全） ○コミュニティ活動の高揚
- 情報通信網の整備、既存施設の有効利用 ○地域文化の伝承

変えたいところ

- 市民活動の活性化 ○行政の市民サービスの向上 ○災害対策
- 駅前再開発 ○調和のとれた市街化の推進 ○学区の再編
- 交通網の整備 ○活力のある街の整備 ○環境整備

やるべきこと

- 市民との会議を定期的（年2回以上、学区毎）に実施する。全体会も
- 市民の為の市民中心の市民活動
- 駅前の未来像、将来像を図化して広く市民にアピールする
- 防災無線の整備、ケーブルテレビの整備
- 市街化区域の見直し ○学区の再編 ○交通網の整備 ○水路の浄化
- 若者に魅力のある町並み

将来像

豊かな緑と先端産業の都市“弥富”

② Bグループの提言

伸ばすべきところ

- 交通の便 ○緑化推進（自然保護） ○市民参加（まちづくり）
- 地域の活用（モラル） ○農業推進 ○行政
- 施設の有効活用（ふれあいの場） ○産業の活用（推進PR）

変えたいところ

- 環境衛生 ○街づくり手法 ○公共施設 ○近代農業
- 行政改善 ○道路の整備

やるべきこと

- 市民参加の街づくりを新しい手法を使い、活用し
- 農産物のPR（野菜・金魚・文鳥）、場所の確保、運営の工夫
- バス路線、時間 ○道路整備、利便を考えた（JR、名鉄、近鉄）
- 自然保護、環境衛生を考えた自然

将来像

飛躍する、手作りの豊かな街弥富

③ Cグループの提言

伸ばすべきところ

- 道路、下水施設
- 福祉
- 企業誘致、駅前開発
- 農業
- 川と水
- 市民と市役所

変えたいところ

- 都市計画
- 防災と防犯
- 街づくり
- 公共施設
- 財政
- 教育

やるべきこと

- 安全と安心
- 水に強い堤防を作ろう
- 道路と下水道の整備
- 財政の見直し
- 農地の保全と自然との対話
- 通学区域見直しと学園都市
- 財政の裏付け(計算書等)を作成する
- 地方交通としてコミュニティバスとする。一般は有料、老人は無料。
通勤通学にも使用できるようにする
- 市民と役所の意思疎通
- 都市計画の見直しと企業誘致

将来像

川と海 人の恵みを次世代へ

④ Dグループの提言

伸ばすべきところ

- 都市化整備
- 自然環境保全と整備
- 公共交通
- 企業誘致
- 人(ハート)

変えたいところ

- 都市化
- 施設
- 公園
- 生涯学習

やるべきこと

- 都市計画の見直し・再検討
- 都市計画の検討
- 都市化の推進
- 都市計画、交通(道路・鉄道)
- 施設の有効利用、公園
- 企業誘致
- 道路交通網の整備
- 環境を重視した工業地域の確立
- 企業誘致と、本社機能を弥富市へ移すように努力してほしい
- 特養老人ホーム(農園付き)の新設
- 文化、スポーツ活動等、生涯学習の場と機会
- 生涯学習の推進

将来像

空と海へのびゆく「まち」やとみ

⑤ Eグループの提言

伸ばすべきところ

- こどもからお年寄りまで声かけ心かけ
- 交通 ○水田・水郷

変えたいところ

- 食・農・健 ○市街地整備 ○水防・防災

やるべきこと

- 田園風景を残した産業の誘致、港湾産業と融合
- 155号線、湾岸道、弥富、木曾岬インター、富浜線の早期着工へ
- 文化の漂う市にしてほしい ○開発に関する情報公開
- コモンスの悲劇 ○水郷を利用した防災施設の整備
- 市街化と防災の両立 ○開発と自然、防災の両立

将来像

明日のやとみのみんなのためにほんとうの美田をつくろう

⑥ Fグループの提言

伸ばすべきところ

- 弥富の文化 ○福祉

変えたいところ

- 防犯 ○福祉

やるべきこと

- 路上駐車を取り締まり ○情報通信の整備
- 総合的な福祉施設、障害者支援センターの設立
- 老後の生活の安全
- 道路（自動車・自転車・歩行者）の利用区分を計画的に進める
- ガードレール等の交通安全対策 ○道路整備 ○歩道整備
- 住民（各家庭）の身に合った負担を行った方が良い。リサイクルと同じく、廃棄物の有料化
- 市有、公共施設建物（ハコモノ）の有効活用
- 河川の自然保護
- 道路の白線（自動車の為の白線）のあり方を、歩行者、自転車を守る為に変更

将来像

緑と水の金魚のまち

⑦ Gグループの提言

伸ばすべきところ

- 生涯学習
- インフラ整備
- 水環境整備

変えたいところ

- 市役所のあり方

やるべきこと

- 清流のある水路の復活
- 道路網の整備、下水道の整備
- 旧弥富地区内の南北を縦断する連絡道路の整備
- 駅前整備の充実と幹線道路以外の道路整備
- 学区単位での人口増施策
- 財源の確保
- 自然を生かした街づくり

将来像

水と自然豊かな郷

自然と開発の調和のとれたまち

人の行き交う活力ある清流のまちやとみ

4 弥富市発展への主要課題

本市の特性や時代の潮流、市民ニーズの動向に基づき、本市の発展に向けた主要な課題を整理すると、次のとおりです。

主要課題 1

市のバランスのとれた発展に向けた、計画的な土地利用の推進と、これに基づく都市基盤の整備

交通の要衝のまちとしての特性や、港湾地域を有するまちとしての特性を最大限に生かし、市の一体的かつバランスのとれた発展を図るため、自然と都市が調和する計画的な土地利用を推進するとともに、魅力ある市街地の形成や住宅・宅地の整備、人・物・情報の交流を一層促進する道路・交通・情報ネットワークの整備、さらには港湾の整備促進など、新たな定住と交流、活力を生み出す都市基盤づくりを進めていく必要があります。

主要課題 2

美しい水郷・田園環境と共生する、だれもが住みたくなる快適・安全・安心な生活環境の整備

災害対策や防犯対策、下水道等の整備を重視する市民ニーズ、環境保全・創造の時代、安全・安心の時代への対応に向け、水と緑の美しい水郷・田園環境を誇るまちとしての特性や、海拔ゼロメートル地帯という特性を踏まえながら、環境を重視した特色あるまちづくりをはじめ、下水道の充実や循環型社会に対応した廃棄物処理体制の充実を進めるとともに、海岸や河川、排水機場等の整備・改修の促進、総合的な防災・防犯体制の整備を図り、だれもが住みたくなる快適・安全・安心な生活環境づくりを進めていく必要があります。

主要課題

3

確実に進む少子高齢化に対応した、総合的な健康づくり・福祉体制、子育て支援体制の整備

確実に進む少子高齢化への対応に向け、充実した保健・医療・福祉環境や市民活動が活発な地域性等を生かしながら、地域ぐるみの保健・医療体制、福祉・介護体制の整備を図るとともに、若い世代が子育てに夢を持ち、子どもを安心して生み育てることができる条件整備を進め、だれもが健康で安心して暮らすことができるやさしいまちづくりを進めていく必要があります。

主要課題

4

明日の弥富市を担う子どもたちの育成と文化の薫り高いまちづくりに向けた、教育・文化環境の充実

まちづくりの基本である人材育成の重要性を踏まえ、明日の本市を担う生きる力を持つ子どもたちの育成と、自己実現の場や機会が充実した文化の薫り高い生涯学習社会の形成に向け、充実した生涯学習・スポーツ環境等を生かしながら、学校教育環境の充実を積極的に進めていくとともに、総合的な学習・文化・スポーツ・交流環境の整備や貴重な文化遺産の保存・活用を進めていく必要があります。

主要課題

5

港湾地域の整備との連動による物流機能の強化を柱とした、豊かで活力ある産業のまちの形成

産業振興による地域経済の活性化と、それに伴う雇用の場の創出、市全体の活力の向上に向け、交通の要衝のまちとしての特性や、港湾地域を有するまちとしての特性を生かし、港湾地域の整備と連動した物流機能の強化を柱に、農水産業から商業、観光・レクリエーションに至るまで、時代の流れに即した柔軟な支援施策を推進し、豊かで活力ある産業のまちの形成を進めていく必要があります。

主要課題
6

地方分権時代に即した自立したまちの創造・経営に向けた、行財政改革の推進と協働体制の確立、コミュニティ機能の再生と創造

これまで以上に厳しい財政運営を迫られることが見込まれる中で、限られた経営資源を有効に活用し、地方分権時代に即した自立したまちを創造・経営していくため、市民・行政ともに意識改革を行い、行財政改革を強力に推進するとともに、活発な市民活動を一層促進しながら、市民と行政との協働体制の確立、地域の状況に即したコミュニティ機能の再生と創造に向けた取り組みを進め、市民と行政とが力を合わせた協働のまちづくり、住民自治の地域づくりを進めていく必要があります。